

9月13日(月)

ただ真実を

聖書朗読 申命 18:17~22

愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかをためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。

Iヨハネ 4:1

詩篇15篇は、主の幕屋に宿るのにふさわしい者はどのような者かという問いをしています。そのような者として挙げられているのは、あなたが期待する大物スターのリストのようなものではありません。ここでは、「義を行う者」、「立てた誓いを変えない者」などが挙げられています。

さらに「心の中の真実を語る人」とあります。神が主の幕屋に望まれるのは真実を語る者です。ここで求められているのは、誠意も伴わず何が真実か分からない今の時代にあって、何と新鮮で純粋な姿勢でしょう。ある書き手は、私たちの抱える問題を「情報による弊害」と表現しています。

真実は、この世の苦痛を和らげるものとして必要とされるものです。嘘偽りのないところで人は変えられます。例えば、小さな町では、玄関のカギを掛けずにいたり、夜間に車中に物を置きっ放しにしたりすることもあるでしょう。そのような地域では、新聞にスキャンダルが掲載されるようなことはありません。それは人々が互いに信頼し合っているからです。誠実、正直であることが互いの信頼の始まりです。

お判りでしょう。求められるのは、すべてを包み隠さず表すことです。どんなに受け入れ難いと思われる真実であっても、霧に包まれたような不確かさ、不信任を生む偽りよりも受け入れるのはずっと容易です。

ジョージ・オーウェルはこう言っています。「偽りの蔓延する時代には、真実を言うことが革命の遂行となる。」革命を起こしましょう。

讚美歌 334

祈り 親愛なるお父様。私たちの良心を整え、真理を愛し、偽りを憎むものとしてください。真理をいかにして語るかを忘れてしまったこの世にあって、どうか私たちがあなた様の真理を語る模範としてくださいますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ブルース・W・ルージュ

カリフォルニア州 マーセド

今日の方

2021年9月13日~9月19日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

9月14日(火)

今は分からなくても

聖書朗読 ルツ 2:1~12

すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。

ピリピ 2:14

転居をしたことがありますか。ナオミが故郷に戻る決意をしたとき、ルツは自分の人生がどれほど変わるのか想像も出来なかったのではないのでしょうか。しかし、ルツは、親族近くに住むことがナオミにとってより良い生活となることを理解し、また、ナオミ一人だけを行かせることは出来ないと思ったのでしょうか。ルツは義母の慣習に従い、その宗教も受け入れる決意をしました。私たちの知る限り、ルツの知る世界は二つ、一つは自分の生まれ故郷、そして、もう一つは結婚した夫の地ですが、彼女はナオミと共に歩む人生を選びました。

新天地でルツはナオミの知恵に従います。ルツの行いやその意欲的な姿勢は、村人や彼女が落ち穂を拾っていた畑の農夫らに知られるようになりました。彼女は多くを求めず、ただ自分の出来る範囲で義母の世話をしていたのです。

ルツは自分の見つけた幸せに気づいていました。彼女が当時、決して高ぶる事のない忠実な自分の生き方によってその名が大いに語られるようになると知っていたはずもないと思いますが、彼女こそ、イスラエルの王ダビデの祖母となった者であり、さらには、彼女によって人類の救い主であるイエス・キリストが誕生されたのです。

神様の導きにより静かに生きることを軽く捉えないでください。ピリピ2章にあるように、光は暗闇のうちに輝きます。私たちにはその光がどれほど先まで届くのか分かりませんが、輝き続けましょう。

讃美歌 303

祈り お父様。あなた様が偉大とされるものと、この世の見方とを識別することの出来る者としてください。

あなた様の御子のお名前によって。アーメン。

コニー・エドワーズ

オクラホマ州 タレキュ

9月15日(水)

神の贖い

聖書朗読 IIサムエル 14:12~14

どうか追放されているものを追放されたままにしておかないように、ご計画をお立てください。
IIサムエル 14:14

私には今の自分以上に大きくなりたいという夢がありましたが、私の人生は破滅に陥ってしまいました。けれども神様は喜んで、そのような壊れたいのちを取り上げ、神の栄光を表わす器としてくださるのです。私は自分の人生が全く崩壊してしまったと思える状況に置かれていました。不幸と喪失の波に打ちのめされ、次々とその波が私を襲ってきました。悲しみと混乱に呑み込まれ、これ以上生き続けていたいのか分からなくなることもありました。そして神様に故郷へ連れ帰ってくださるよう願ったとき、神様は私に死は一つで十分なのだ気付かせてくださいました。それはイエス様の死です。今私は生きているからこそ、周囲の人たちに自分の経験を伝えることが出来ます。神様は私を救い、新たな命を与えてくださいました。私たちの神様は私たちを贖おうとしておられます。

あなたの神様は贖い主であり、いかなる試練も乗り越えさせて下さるお方です。あなたは、神様にのみ信頼を置いていますか。

父なる神よ。あなたは何と忠実であられることか。

あなたとともに人生の方向を変えるとき、そこには影はない。

あなたは変わることなく、その憐れみは決して失われることはない。
あなたはこれまでも、そして、これからもあなたであり続けてくださる。

-T. O. Chishom-

讃美歌 298

祈り 親愛なる主よ。私たちのいのちは、万事お出来になるあなた様の御手にあります。あなた様は過去、現在、未来すべてをその支配のもとに置かれます。私たちはあなた様の守りの内に憩います。

イエス様のお名前によって。アーメン。

キャロル・L・ハインズ

メリーランド州 ウッドストック

9月16日(木)

波乱に満ちた人生

聖書朗読 1列王 19:1~9

愛する者たち。私たちは互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

Iヨハネ 4:7

ジェットコースターはテーマパークでは楽しいものですが、人生には望まないものでしょう。I列王記19章を読むと、エリヤの人生がジェットコースターのような波乱に満ちたものであったことが分かります。彼の人生の山と谷を挙げてみましょう。目の前に立ちはだかる大胆不敵な王アハブがその兵士らを遣わしエリヤを探させ、エリヤは殺されそうになったこともあります。しかしある時は、たった一人で400人のバアルの預言者に勝利し、すべてのイスラエル人を主への信仰へと回帰させることもありました。そうかと思えばある時は、立ちはだかる邪悪なイゼベルが一両日中にエリヤを殺すことを約束し、エリヤは身を隠し祈り、酷く苦しめられるくらいなら平和に死んだ方がよいと願うこともありました。何と波乱に満ちた人生でしょう。

エリヤが洞穴に一人隠れているとき、主のことばが彼に臨みます。「エリヤよ。ここで何をしているのか。」(9節)そこでエリヤは動きだし、彼の人生は良い方向へと向かうこととなりました。主はあなたにも同じ問いを投げかけておられませんか。あなたはそこで何をしていますか。

自分の置かれた環境に不満を覚えたり、様々な状況を嘆いたり、あるいは、世の風潮をただ批判するのではなく、実際に行動を起こし、何か出来る事をしてみませんか。職場ではどのように行動していますか。家庭内あるいは教会ではどうでしょう。今こそ、言い訳をやめ、自分の置かれた場で主の使命を果たすための行動に移す時です。今あなたは何をしていますか。

讚美歌 296

祈り 主よ。私のいのちを取り上げ、あなた様の目的のために用いてください。どうか、私が自分の置かれた場で何か変化をもたらすことの出来るよう、気力と目的と情熱と勇気を見出させてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

デイル・ジェンキンス

テネシー州 スプリングヒル

9月17日(金)

人生の嵐における疑い

聖書朗読 ヨブ 40

さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰が試されると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。

ヤコブ 1:2~3

忍耐の人と思われていたヨブですが、ヨブ記40章で、彼は神に問い、そしてその後赦しを請う様子が描かれています。暴風に揺れる舟で恐れを抱いた弟子たちは、イエスに問い、その後自らを恥じています。これらの場面で彼らはいずれも、自分たちの嘆きや苦しみを制することを懇願しましたが、神が守ってくださるという事に疑いの思いを抱いたのです。

困難に立ち向かうための強さは、なぜ自分たちがそのような困難に直面しているのかを知ることによってではなく、主がそれをご存知であって私たちを守り、責任を負ってくださると知ることによって得られるものです。ヨブは手を自分の口にあて、弟子らは黙って座りました。彼らは各々それまでに口にしたことばを撤回しようとしてました。

私は、公平性というものについてしばしば疑いの思いが沸き上がってきます。若いころ患った病の為に、私の抱く夢には限界があり、心を傷つけるいわれのない責めを負うことで、復讐したいという思いに駆られます。ヨブや、イエス様と共に乗船していたにも関わらず荒海で身がすくんでしまった弟子たちのように、私は神に説明を求めてきました(まるで主が自分の嘆きに気づくのが遅いとでも言うように)。

私は、苦難や失望という個人的な経験により試されたことによって、なぜヨブが自分の口を閉じ、弟子たちもイエスの問いに口を閉ざしたのか理解できません。私は語るに値しない者です。あなた様に向かって何を語る事が出来るでしょう。

讚美歌 290

祈り 親愛なる主よ。苦しい時、あなた様の守りに愚かな疑いを抱いてしまうことをお許しください。あなた様が偉大であることに常に気づかせてください。そして私が絶望の淵にあるとき、あなた様の力を感じる事の出来るよう助け導いてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

ウィリアム・ヤング

コロラド州 モニュメント

9月18日(土)

よみがえり

聖書朗読 ヨブ 42

その子は、あなたを元気づけ、あなたの老後をみとるでしょう。

ルツ 4 : 15

私たち誰もが必要とするものがあります。それは絶えずよみがえり回復することです。健康、人間関係、安全、自己への信頼、自分らしさ、目標、目的、そして、喜びは、困難や喪失に遭遇した際影響を受けやすいものです。神様はそのような時、私たちがどのような捉え方をしようとも、必ず回復してくださると約束され、その約束を持ち続けておられるという確信を、イエス様を通して私たちに与えてくださっています。

ヨブは真に恵みを受けた人でした。家族、友人、健康、物質的なものに恵まれ、社会的な地位もあり、この上ない恵みに与っていました。こうしたもの全てが彼から奪い去られたとき、友人達は、神から彼を引き離すような大きな罪を悔い改めるよう促します。けれどもヨブは、繁栄していた頃と同じように、逆境にあっても忍耐強い信仰をもって断食しました。そして、後年、ヨブは神様からこれまで以上に恵みを賜ることとなりました。

ヨブと同じように、私たちも皆、神様から計り知れない恵みを受けています。そして、説明し難い疑いの思いや苦しみ、悲痛な喪失、あるいは、将来への不安も同じように経験しています。ヨブの神様への信頼は、私たちの信仰の歩みの上で、たとえ暗闇にあっても光を与えてくれるものでしょう。

私たちが活力を回復される時、それは、ヨブのものとは違うかもしれませんが、この世の生涯ではそのような経験をすることがないかもしれませんが、再びよみがえることは確実なのです。イエス様が誕生され、死なれ、そしてよみがえられたという事実、神様の私たちへの御愛が示されています。そして、私たちの信仰は義とされるのです。

讃美歌 364

祈り 親愛なる主よ。あなた様が主なる王であり正しいお方であることを覚えさせてください。すべてがあなた様の御手のうちにあり、私たちへのあなた様の御愛は絶えることがありません。あなた様が約束を守り続けて下さっていることを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ランディ・ロバーツ

ニューメキシコ州 グランツ

9月19日(日)

小さな幸せの木

聖書朗読 詩篇 1

幸いなことよ。悪者のはかりごとによらず、罪びとの道に立たず、あざける者の座に着かなかった、その人。まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。

詩篇 1 : 1~2

私の20代の孫娘は古い絵画のテレビ番組を見たり、今は亡きある画家の絵画を真似て描いたりするのが好きです。その画家は、風景画の至る所に「小さな幸せの木」を描くことで知られています。

今日の聖書箇所、詩篇の著者はまさに「小さな幸せの木」を描いています。ここに描かれた木々の神様との関係はとても純粹なものです。ここに描かれた者は神のみことばを思い巡らし、そこに憩う事を喜びとしています。そして、養われ、成長し、実を結び、どの季節でも生き茂るのです。このことは、神様がその民に持つておられるみこころです。私たちはこのような小さな幸せの木なのです。

けれども、不信仰な者は不安定で実を結ばず、内なる喜びもなく、滅びに至ります。結局のところ自分が真に喜びを見出すものは何でしょう。それは、救い主との関わりを成長させながら生きることです。

神には私たちに対する謀（はかりごと）はない。ただ私たちに幸福にされる。

歓喜する者は誰か。それは神の民である。

-Thomas Watson-

讃美歌 347

祈り 親愛なる主よ。私が喜びと感ずるものは多くあります。けれども、真の幸せが、ただあなた様とその民との忠実な関係によってのみもたらされる事を私に気づかせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ブルース・ヘンダーソン

ネバダ州 カーソンシティ